

私の推薦する天然記念物

夕張岳蛇紋岩メランジュ



北海道の大都会“札幌から見える山”で奥ゆかしくも第二の高峰である夕張岳(1668 m)は、たおやかな山容と固有種を含む多くの高山植物という二つの比類無き特徴で親しまれている銘山である。これらの特徴は、夕張岳を中心に広がる蛇紋岩メランジュという特異な地質現象によって育まれてきた。

蛇紋岩メランジュとは、蛇紋岩中に様々な種類や大きさ・形の岩石ブロックが点在するものをいう。柔らかい蛇紋岩は浸蝕作用によってなだらかになり、ブロックは浸蝕に耐えて突出する。これは、あたかも海に浮かぶブロックの島々といった風情の地形景観を生み出し、雲海に浮かぶ山々のイメージを地質で表現した一幅の絵画といえよう。加えて、蛇紋岩は植物にとって栄養分の乏しい土壌にしかならず、氷河時代からの生き残りである高山植物しか生息できない環境を形成している。

夕張岳蛇紋岩メランジュは、中生代の海洋地殻沈み込みに伴って形成された様々な変成岩類を、蛇紋岩が地下深部より取り込みながら上昇し、地表に顔を出すことによって形成された。これは、プレート運動に代表される壮大な地球の生きざまの証しであり、蛇紋岩やブロックの一つ一つが地球からの貴重なメッセージなのである。幸いなことに、蛇紋岩の上昇に伴い周囲の地層も褶曲して持ち上がったので

蛇紋岩メランジュが標高の高い所に位置するようになった。おかげでこれらの地層が蛇紋岩メランジュを過度の浸蝕から守り、高山植物を駆逐する強力な外来種の侵入を拒む壁として機能するようになったのである。

石炭で近代日本の産業を支えた街夕張は、今や市内の炭鉱が全て閉山し、観光を筆頭とした様々な振興策を試みている。そんな中、市民のシンボルでもある夕張岳にもスキーリゾート開発構想が浮上した。かつて、大地球の恵みである石炭に糧を求め、アンモナイト化石に親しんでいた夕張市民は地学にも造詣が深く、こよなく自然を愛しているの、そうした市民らが中心となって夕張岳の天然記念物指定に向けて運動を展開している。夕張岳の地質研究を行った地質屋の努めとして、この絶妙なバランスによって成り立っている独特な自然は、その母なる大地の地質からして特異であり、世界に誇ることのできる地質の天然記念物としてここにアピールしたい。(地質調査所北海道支所 中川 充)

文 献

Nakagawa, M. and Toda, H. (1987): Geology and petrology of Yubari-dake serpentinite melange in the Kamuikotan Tectonic Belt, Central Hokkaido, Japan. Geol. Soc. Japan, 93, 733-748.